

追加予算額 五・九六六・四〇〇円

現計 七一・五一二・〇〇〇円

昭和三十八年十二月二日第四回定期議会において、本年度追加更に正予算を審議せられた。これが議決せられました。

尚、主な事業は農業費二万円、公民館費七万円、高校負担金六万円、財産費五二万円が主であります。

本費六七万円、農業費九〇万円、公民館費七万円が主であります。

余甲が主であります。

才出 議会費 三、二三四、〇〇〇円
町税 二九三、五〇〇円
農補助金 一、三〇〇、〇〇〇円
寄附金 六一、七〇〇円
繰越金 一、一二四、二〇〇円
合計 五、九六六、四〇〇円

才出 議会費 一、三六一、四〇〇円
役場費 九五、〇〇〇円
消防費 六四、六〇〇円
土木費 一、六八四、九〇〇円
教育費 六九、八〇〇円
社労費 一、一七八、一〇〇円
産業経済費 五二六、九〇〇円
財産費 一〇、〇〇〇円
選舉費 一五〇、一〇〇円
公債費 一一五、〇〇〇円
諸支出金 五、九六六、四〇〇円

国民年金加入について
満二十才になられた方
国民年金に未加入の方

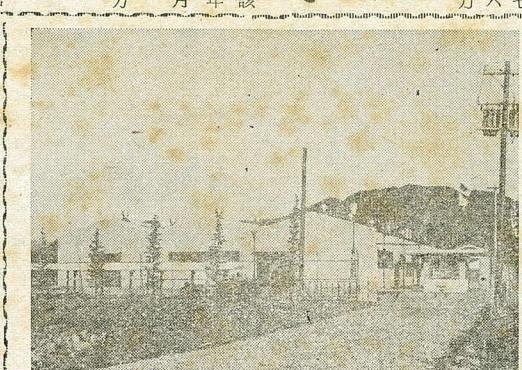
わが国には、今まで官公署や会社工場等、或はその他の事業所などに勤めている、いわゆる俸給生活者に対しては恩給とか厚生年金または共済組合などの制度があつて、それぞれ保障されているのであります。しかし将来の国家的保障もありませんでした。ところが昭和三十四年四月に国民年金法が公布されました。

年金が受けられることが満二十才になられた方には、文字どおり国民年金であります。加入届を出しておられた方も当然被保険者でありますので昭和三十一年四月以降の保険料は未納期間になつておられます。したがつて加入届を出さず、又保険料の納付を怠つておりますと、老後になつた場合に、不時の事故で收入が途がなくなつた時等の場合は、その他の農業や自分で商売をしている人達に対しては恩給も年金制度もなく、何等将来の国家的保障もありませんでした。ところが昭和三十四年四月に国民年金法が公布されました。

昭和三十九年度成人該當の方は、昭和十九年一月一日より同十二月三十一日までに生れ、住民登録されている方であります。

実施日 昭和三十九年一月十五日

成年式について



説教された天竜工業川辺工場

幸せはわが手で今からでも遅くはありません。明日といわず今すぐ役場に御尋ね下さい。

尚、不審な点やわからぬことがあります。されましても運営はあります。ら、役場に御尋ね下さい。

川辺町のお年寄りは何人位いらっしゃるかと六十歳以上の方を調べてみました。全部で一三八一人おられました。

これは一〇〇人の中には十三人程のお年寄りがおられるということになります。

このお年寄りの数は年々多くなっています。これは人間の寿命が延びるようになります。

年金や老人福祉法の制定等いろいろな施策も行なわれるようになります。

年金や老人福祉法の制定等いろいろな施策も行なわれるようになります。

年々ふえているといふことでもあります。

しかし、老人の福祉を確立するには外からの援助ばかりにたよるべ

きでなく、お年寄り自らの手によつて打ち立てるべき面が多いとい

うことが知られています。

京都の年輪クラブも

その一つの現れとして

京都の年輪クラブとい

う老人クラブの設立趣

意書の中に

「本當のとよりし

うことをひらめいて

中部中学校全国表彰の栄誉

第三回町美術展 (11月23日) 報告

地区別に調べ		田下飯島見田久吉麻生	計
150	23	74	1,381
112	293	140	
上神中西	103	78	
川辺石井	86	217	
下塩鹿	105	51	
田下麻生			
飯島			
島見			
田久吉			
田麻生			
田生			
田塩			
田鹿			
下飯			
下島			
下久吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			
下塩			
下鹿			
下田			
下久			
下吉			
下麻			
下生			